

エコアクション21 環境活動レポート 2011

(活動期間 2010. 6～2011. 5)



2011年7月1日発行

 株式会社フジヤマ

目 次

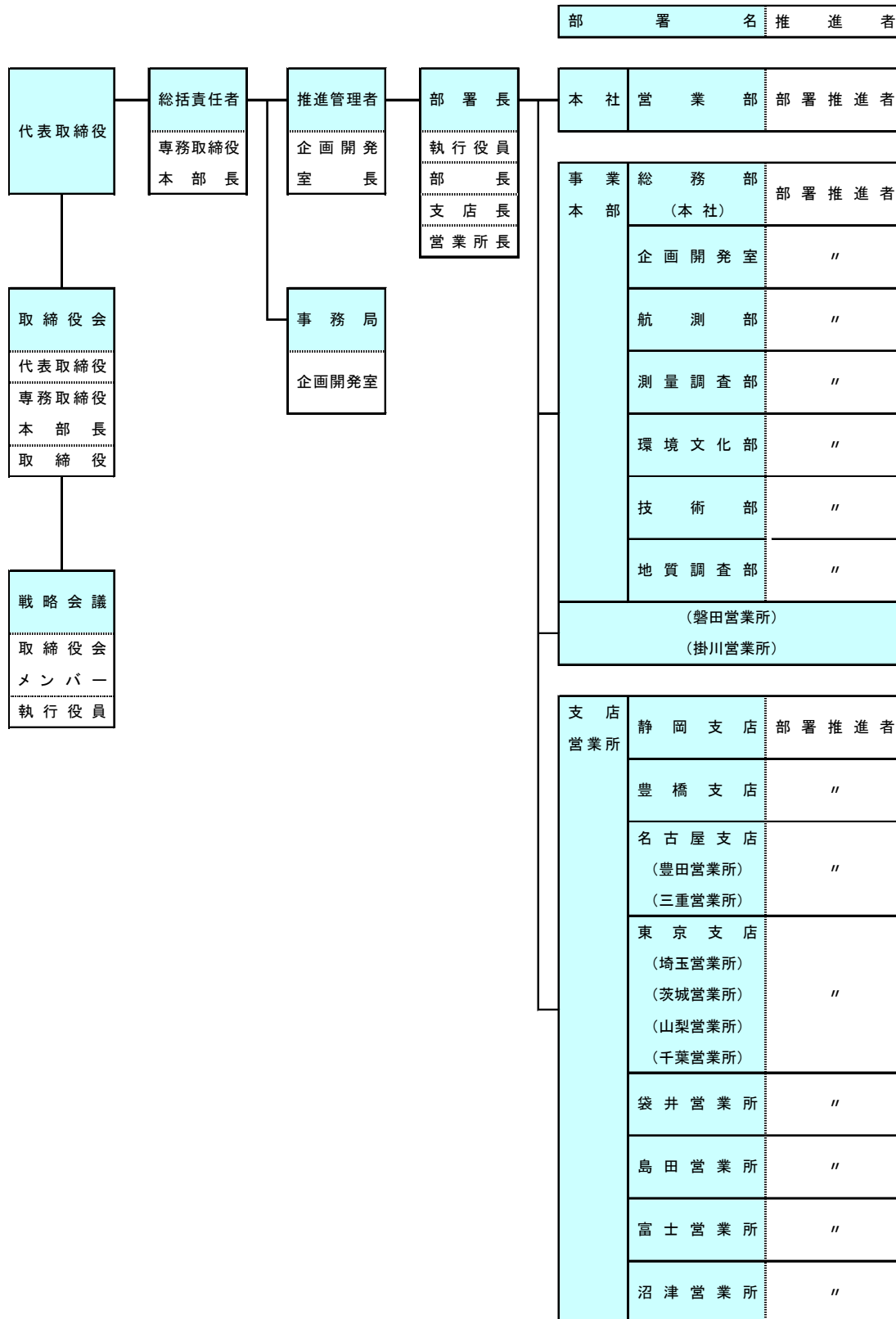
1. 組織の概要	3
2. 対象範囲	4
3. 株式会社フジヤマ 環境方針	6
4. 環境目標（単年度及び中長期目標）	7
5. 環境活動計画	9
6. 環境活動の取組状況	10
7. 環境活動の取組結果	12
8. 環境活動の取組結果の評価と次年度取組内容	13
9. 環境関連法規への違反、訴訟の有無	14
10. 代表者による評価と見直し	14

1. 組織の概要

事業所名	株式会社フジヤマ	
代表者	代表取締役	藤山義修
事業所	本 社	静岡県浜松市中区元城町 216-19
	事業本部	静岡県浜松市東区天竜川町 303-6
	静岡支店	静岡県静岡市葵区伝馬町 22-2
	豊橋支店	愛知県豊橋市牛川通 2-1-1
	名古屋支店	愛知県名古屋市中区丸の内 1-11-15
	東京支店	東京都足立区綾瀬 2-5-3
	袋井営業所	静岡県袋井市小山 405-1
	島田営業所	静岡県島田市大井町 4-16
	富士営業所	静岡県富士市水戸島本町 1-22
	沼津営業所	静岡県沼津市高島町 29-4
環境管理責任者	専務取締役本部長 金原誠司	
担当者及び連絡先	企画開発室	川崎俊雄
		TEL: 053-462-8807
		FAX: 053-462-8822
		E-Mail: t-kawasaki@con-fujiyama.com
事業内容	建設総合コンサルタント	
	都市計画、区画整理、補償調査、航空写真測量、地上測量、深淺測量、土木設計、造園設計、上下水道設計、建築設計、設計監理、地理情報システム、地質調査、環境アセスメント調査、遺跡調査等	
業者登録	測量業、建設コンサルタント、地質調査業、補償コンサルタント、環境計量証明事業、土壤汚染指定調査機関、一級建築士事務所	
事業規模	資本金	30,000 千円
	売上高	3,674,000 千円 (2010年6月～2011年5月)
従業員数	245名(正規) + 41名(臨時)	平成23年5月現在
延べ床面積	5,211 m ²	

2. 対象範囲

■実施体制表（認証登録範囲：全社を対象）



[役割・責任・権限]

職 名	役割・責任・権限
代表取締役	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針を決定する ・環境経営システムを承認する ・統括責任者を任命する ・資源を用意する ・システムの評価と見直しを行い、必要な指示を統括責任者に行う
総括責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境目標及び環境活動計画を承認し、全ての従業員への周知を行う ・代表取締役に代わり環境経営システム全体の構築・運用に対する責任と必要な権限を持つ ・取り組みを評価する ・苦情処理に対応する ・緊急時における対応を指示する ・環境活動全般の運用を監視する ・代表取締役へ運用状況等を報告する
推進管理者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境目標・環境活動計画を策定する。 ・統括責任者を補佐する ・システムの運用を推進する ・外部からの問い合わせに対応する ・文書及び記録を管理する ・教育訓練・目標計画を策定する ・是正・予防措置を検討する ・活動レポートを広報する
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・各部署の環境負荷と環境への取組状況の把握及び評価を取りまとめる ・各種報告書を作成する ・活動レポートを作成する ・条例・法令を管理する各部署の負荷測定取りまとめを行う
部署長	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針、環境目標及び環境活動計画を従業員に周知させる ・環境目標、環境活動計画の実行指示及び推進状況の把握を行い、事務局へ報告する ・部環境目標及び部環境活動計画を策定・実行した場合は、併せて事務局へ報告する ・部門に関連する法規制等を遵守する ・部署推進者を任命する
部署推進者	<ul style="list-style-type: none"> ・教育・訓練を実施する ・推進状況の確認及び記録を当該部署長へ報告する
従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・統括責任者、推進管理者及び当該部署長の指示に基づき協働する

3. 株式会社フジヤマ 環境方針

理念

建設総合コンサルタントの株式会社フジヤマは、地域とともに発展していくために環境保全、循環型社会の構築に向けての取り組みが重要と認識して、企業活動を通じて環境の保全と改善に向けての取り組みを積極的、継続的に行って地域への責任と役割を果たしていきます。

指針

1. エコアクション21環境経営システムを構築・運営し、環境への取り組みを継続的に行います。
 2. 製品の供給を行う上で、環境に配慮した設計及び提案又はコンサルティングを行い環境保全、環境汚染の防止に努めます。
 3. 企業活動に伴う環境の負荷を軽減するために、二酸化炭素排出量、水資源、廃棄物の排出量の削減及び環境汚染の防止に努めます。
 4. 環境に関する法令及び法規制の遵守に努めます。
 5. エコアクション21への取り組みを有効に行うために、必要な教育訓練を行います。
 6. 行政機関や環境団体等に協力をして、地域の環境保全活動に参加していきます。
- ・環境方針は全従業員に周知し、かつ環境活動レポートの公表を通じて、地域へのコミュニケーションを図るよう努めます。

平成21年9月15日

株式会社フジヤマ
代表取締役 藤山義修

4. 環境目標（単年度及び中長期目標）

環境目標項目		2009年度 (2008年度比)	2010年度 (2008年度比)	2011年度 (2008年度比)	2012年度 (2008年度比)	2013年度 (2008年度比)
二酸化炭素の削減	二酸化炭素の 排出量 (659,033kg)	652,902 kg (-6,131kg)	649,882 kg (-9,151kg)	648,967 kg (-10,066kg)	648,052 kg (-10,981kg)	647,135 kg (-11,898kg)
	①ガソリン使用量の削減 (156,810L)	155,759L (-0.67%)	155,242L (-1.0%)	155,084L (-1.1%)	154,928L (-1.2%)	154,771L (-1.3%)
	②電力使用量の削減 (615,545kWh)	607,297 kWh (-1.36%)	603,234 kWh (-2.0%)	602,003 kWh (-2.2%)	600,772 kWh (-2.4%)	599,540 kWh (-2.6%)
廃棄物の削減	紙の削減 (21.98t)	21.68t (-1.36%)	21.54t (-2.0%)	21.49t (-2.2%)	21.45t (-2.4%)	21.40t (-2.6%)
	ペットボトル等の分別	分別収集の徹底	分別収集の徹底	分別収集の徹底	分別収集の徹底	分別収集の徹底
水使用量の削減	節水に努める (3,483m3)	3,460m3 (-0.67%)	3,448m3 (-1.0%)	3,444m3 (-1.1%)	3,441m3 (-1.2%)	3,437m3 (-1.3%)
環境保全に配慮した提案・コンサルティング	省資源を可能とする製品・技術の提案 省エネルギー化を可能とする工法・技術の提案 廃棄物の抑制を図る技術の提案 環境保全に配慮した技術の提案	7件以上の提案をする	10件以上の提案をする	13件以上の提案をする	16件以上の提案をする	19件以上の提案をする

※1 環境目標項目の括弧内の数値は、基準年度2008年の実績です

※2 灯油については、使用量が微量なので維持管理項目とする

※3 紙以外の廃棄物は数量の把握が困難なため、目標値は定めませんが、分別の徹底を行う

※4 紙を含む消耗品についてはグリーン購入とし、出来る限りエコマーク商品、再生利用品の購入に努める

「代表者による評価と見直し」の指示に基づき「環境保全に配慮した、提案・コンサルティング」の長期目標は見直します。

環境への負荷の状況

		単位	2008 (H20年)	2009 (H21年)	2010 (H22年)
① 総エネルギー投入量	購入電力	MJ	6,050,807.4	5,775,675.5	5,947,179.5
	化石燃料	MJ	5,477,923.2	5,503,533.3	5,313,439.7
② 総物質投入量	資源投入量	t	21.58	20.23	20.89
	循環資源投入量	t	0.40	0.01	0.16
③ 水資源投入量	上水	m ³	3,483	3,884	3,637
④ 温室効果ガス排出量 ※1	二酸化炭素	Kg-CO ₂	659,033	647,487	643,002
⑤ 化学物質排出量・移動量	該当なし				
⑥ 業務件数		業務	1,156	1,014	1,017
⑦ 廃棄物等総排出量 ※2	再生利用	t		9.058	11958.0
	熱回収	t		0.028	0.030
	単純焼却	t		9.770	12,817
⑧ 廃棄物最終処分量 ※2	最終処分量	t		4.120	4.233
⑨ 総排水量	公共用水域	m ³	183	194	197
	下水道	m ³	3,300	3,690	3,440

※1 2009年度の廃棄物は10月から5月の集計です。

※2 温室効果ガスである二酸化炭素の排出量の算出には、中部電力㈱の H21 年度の実排出係数の 0.474 kg-CO₂/kWh を用いました。

5. 環境活動計画

項目	目標	実施項目	担当	実施スケジュール															
				6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5				
二酸化炭素の削減	エコドライブ・アイドリングストップの実施	エコドライブの方法教育・実施	事務局 部推進者				→												
		昼休み・残業時に不要な照明の消灯に努める	部推進者																
	電力使用量の削減	OA 機器を使用しないとき、電源オフ又は省電力モードにする	部推進者																
		冷暖房機器は適切な温度で使用する	部推進者																
廃棄物の削減	紙の削減	分別基準の明確化	事務局	→															
		分別方法の教育	事務局	→															
		社内資料の N アップ印刷、両面印刷、白黒印刷の推進	事務局 部推進者	→															
		廃棄物の測定	部推進者																
	ペットボトル等の分別	分別回収の徹底	部推進者																
水使用量の削減	漏水の点検	漏水の点検	部推進者	→															→
		節水に努める	部推進者																
環境保全に配慮した提案・コンサルティング	年7件以上の提案をする	省資源を可能とする製品・技術の提案 省エネルギー化を可能とする工法・技術の提案 廃棄物の抑制を図る技術の提案 環境保全に配慮した技術の提案	部推進者																

6. 環境活動の取組状況

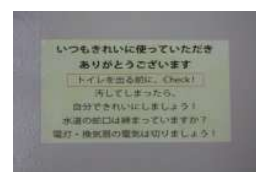
1. エコドライブ・アイドリングストップの実施

- (ア) 部推進者への教育を行い、各部の従業員に対して方法の説明を行ってきました。方法については浸透してきています。
- (イ) 社有車の買い替え時には、出来る限り低公害・低燃費車の購入を検討しています。



2. 電力使用量の削減

- (ア) 昼休み・残業時に不要な照明の消灯に努めました。
- (イ) 複合コピー機については、目に見えるところに削減の注意事項を掲示し、啓発に努めました。
- (ウ) 冷暖房機器は、コントローラーに推奨設定温度のシールを張り、節電に努めました。



3. 廃棄物の削減

- (ア) 分別基準について部推進者への教育を行い、各部の従業員に対して方法の説明を行ってきました。各部の収集場所には測定記入用紙とはかりを設置して必ず記入を行うよう指導を行ってきました。方法については浸透しています。
- (イ) 社内資料の削減方法について部推進者への教育を行い、各部の従業員に対して方法の説明を行ってきました。削減の注意事項を掲示し、啓発に努めました。



4. 水使用量の削減

- (ア) トイレ、給湯場所について水漏れ等が無い点検を行いました。

5. 環境保全に配慮した提案・コンサルティング

- (ア) 主にコンサルタント部門を中心にして18項目の提案を行ってきました。コンサルタント部門での提案意識は強いので今後も推進していきます。測量調査部門はまだまだ、提案意識が不足していると思われるので、今後意識付けが必要になります。



6. 社外での環境保全活動

- (ア) 浜松市道路河川里親制度の河川清掃活動、しずおか未来の森サポーター活動、一社一村しずおか運動、浅羽海岸「グリーンウエーブキャンペーン」、中田島海岸清掃活動を通じて、環境への取り組みを広報してきました。

詳細は弊社ホームページURL: http://www.con-fujiyama.com/k_csr/index.htmからご覧ください。



浜松市道路河川里親制度の河川清掃活動（20回目）



STOP温暖化
アクションキャ
ンペーン 2010 準
グランプリ受賞
(2011.2)

しずおか未来の森サポーター活動
(遠州灘海岸 50ha の下刈や清掃、除伐、
植樹、松くい虫被害の林内パトロール)



一社一村しずおか運動
(浜松市天竜区において、有休
農地での菜の花や大豆栽培を
地元の方と協働して行ってい
ます)





浅羽海岸植樹「グリーンウェーブ
キャンペーン」活動

浅羽海岸の松林を再生させて白砂青松を取り戻し、貴重な緑の財産を次世代へと継承していくことを目的としています。

7. 環境活動の取組結果

取組み初年度は年度途中からの集計であったために、2年目を向かえて初めて1年間の比較が可能になりました。2010年度の目標値と比較をすると、未達成の項目が2項目ありました。緊急雇用対策事業の臨時要員が年間で803人いたことを考慮すると、努力した結果が現れていると思います。

項目	単位	2010年度の目標値	2010年度の実績値	目標比 (%)	達成
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	649,882	643,002	98.9	○
ガソリン使用量の削減	L	155,242	152,581	98.3	○
電力使用量の削減	kWh	603,234	605,003	100.3	△
廃棄物の削減 (紙使用料)	kg	21,540	21,050	97.7	○
水使用量の削減	m ³	3,448	3,637	105.5	△
環境保全に配慮した提案・コンサルティング	件	10件	18件	180.0	○

削減目標：○=達成（100%未満）、△=努力した（100%以上～110%未満）、×=未達成（110%以上）

達成目標：○=達成（100%以上）、△=努力した（100%未満～90%以上）、×=未達成（90%未満）

購入電力の排出係数は、2009年(H21)中部電力の実排出係数0.474 kg-CO₂/kWhを使用

8. 環境活動の取組結果の評価と次年度の取組内容

項 目	評 価	次年度の取組内容
ガソリン使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年に比べて約 5,000L 削減されており、活動の効果が顕著に現れています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きエコドライブを徹底して、ガソリン使用量の削減を目指します。車両の買い替えの際には、できる限りエコカーの購入を進めます。
電力使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年に比べ電力使用量の増加が見られますが、これは緊急雇用対策事業の受注により、臨時職員を多数雇った結果であると思われます。 ・エアコンの設定温度(夏季 28 度、冬季 20 度)についてはある程度理解が進んでいますが、エアコンの使用環境(使用時はブラインドを下げて室温の上昇を防ぐ等)について一部理解不足の部署が見受けられます。今後、広報等を徹底して行きます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東北大震災や浜岡原子力発電所の停止等の影響で、電力消費量の削減が求められています。各部署の照度等、適切な作業環境を確保する中で、更なる節電に取り組めます。 ・エアコンの使用環境の理解を図るよう促します。
廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物についての分別はほぼ徹底して出来てきています。 ・両面コピー等の徹底もされているが、紙の使用量は緊急雇用対策事業の受注により臨時職員が作業しているため、資料作成のためのコピーの量が増えています。今後も引き続きコピーの使用について徹底をしていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紙の廃棄物については、資源物への転換を促していきます。
水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレ、給湯場所以外の使用量はほとんど無いため、蛇口の閉め忘れに注意を促してきました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・蛇口付近に「閉め忘れに注意」の張り紙をして、注意を促していきます。 ・維持管理項目とします。
環境保全に配慮した提案・コンサルティング	<ul style="list-style-type: none"> ・提案は 18 件行われており、年間 10 件以上の目標をクリアしています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後ともより多くの提案が出来るように指導していきます。特に測量調査部門への指導をしていきます。 ・長期計画を見直します。

9. 環境関連法規への違反、訴訟の有無

当社が遵守すべき環境関連法規及び条例に対する違反は1件もありませんでした。

また、関係当局からの違反などの指摘も過去3年間ありません。現地での作業(測量・調査等)に対する違反、指摘も同様にありませんでした。

環境に関する訴訟等も1件もありませんでした。

平成23年4月28日

株式会社フジヤマ

総括責任者 金原誠司

10. 代表者による評価と見直し

平成21年10月のキックオフ宣言から1年8ヶ月が経過しました。目標値と比べて、二酸化炭素排出量、電力使用量及び水使用量が微増になった以外はほぼ達成できています。

昨年との比較では、ガソリン、ガスについては昨年より削減されています。電力消費量について微増になった原因は、緊急雇用対策事業委託等で各部署にアルバイトの数が一時的に増加したことにあります。又、これに伴い二酸化炭素の排出量及び水の使用量が増加しました。

社会的には、3月の東北大震災や浜岡原子力発電所の停止等の影響で、今まで以上に電力消費量の削減が企業に求められています。今後、作業量の平準化、人員の適正配置、事務室内の照度の確認等により削減努力をして、適切な作業環境を確保した中で、更なる電力消費量の削減に取り組んでいきます。

環境保全に配慮した提案・コンサルティングの目標に対しては上回っています。今後も引き続き提案件数を増やしていく努力をしていきます。

活動計画の実施においては、各項目に対して、全社員への教育、指示の徹底が行われ、社員の環境に関する意識が深まっており、今後の削減に向けて期待を持つことが出来ました。

取り組みに対して、社員一人ひとりが自覚を持ち、行動している現状ですので、今の段階では、環境方針、環境経営システム等の変更は必要がないと判断しています。ひきつづき取り組みを続けていくように環境管理責任者に指示をしました。

平成23年4月29日

株式会社フジヤマ

代表取締役 藤山義修